

タイトル	北海学園大学人文学会記録 第4回例会ミニシンポジウム「映画とおもちゃと博物館：アイヌと民族表象をめぐって」開催
著者	岩崎，まさみ；IWASAKI, Masami
引用	北海学園大学人文論集(49)：169-171
発行日	2011-07-30

第4回例会 ミニシンポジウム

「映画とおもちゃと博物館

—— アイヌと民族表象をめぐって ——」

日時：平成23年1月29日(土) 午後3:00～5:00

場所：北海学園大学・AV4教室

コーディネーター

岩崎まさみ（北海学園大学人文学部教授）

パネリスト

大石 和久（北海学園大学人文学部教授，人文学会委員長）

貝澤 太一（アイヌ文化研究家，北海学園大学大学院文学研究科修了生）

手塚 薫（北海学園大学人文学部准教授）

○大石 皆様，きょうはお忙しい中お集まり下さってありがとうございます。人文学会委員長としてお礼申し上げます。人文学部卒業生，また大学院の修了生の懐かしい方々に再びお会いすることができて，うれしく思います。

この北海学園大学人文学会は，創設が2009年ですから，まだまだ2年目の若々しい学会です。この学会は，きょう開かれるミニシンポジウムのよう

に学問的な場でありつつも，同時に同窓会的な場でもあることを目指しております。

今日お集まり下さったお懐かしい皆様のお顔を拝見しますと，まだ2年目の学会ではありますが，同窓会としてのあり方が次第に定着しつつあることを実感いたします。

また，きょうは，以前と比べ，これから人文学部でご活躍下さるだろう1，2年生もずいぶん参加して下さっているご様子。在学生の中にもこの

学会は定着し始め、年齢的にも厚みのある学会になってきたようです。

さて、人文学会委員長からの挨拶はここまでにして、つぎにミニシンポジウム・コーディネータの岩崎先生、よろしくお願いいたします。

○岩崎 足元がつるつるして危ないところをお集まりいただきまして、感謝申し上げます。

このミニシンポジウム話がまとまったのは、焼鳥屋で3人で飲んでいる時のことでした。大石先生が特にアイヌ民族の表象と映画ということについてこれまで興味を持っておられたということで、ではそれをネタにみんなで何かやろうよという事になりまして。学問分野はちょっとかたく感じるのですが、そうではなくて、こんな思いつきからいろいろな研究が始まっていくんだということを、大学院生、それから学部の1年生の人たちにも知っていただきたいということで、このミニシンポジウムを企画いたしました。最後、大石先生が、2時間もやるのだったらミニではなくてシンポジウムではないかというメールが来たのですけれども、でもミニをつけて、今後の成長、ついに本当のシンポジウムができるようになることを目指そうということで、あえてミニということで、2時間つき合っていたらと思います。

趣旨説明ですが、お配りした資料にミニシンポジウム趣旨ということで下の方に書いてあります。

私は専門が文化人類学、手塚先生もそうですし、大石先生は映画に関する研究をやられていて、貝澤太一さんは本学研究科で、私のもとでアイヌ民族の植物に関する文化伝承という研究で修士論文を書かれました。太一君自身がアイヌ民族の出身者であるということもあって、あまりほかでは見かけられないようなダイナミックな研究ができるのではないかと思います。「描かれる者」ということに焦点を当て、民族史とか、あるいは映画とか、いろいろなものに先住民族というのは描かれてきていますが、

その表象のゆがみなどを明らかにしていきたいと思います。大石先生は映画にあらわれてくるアイヌ民族、さっきちょっと見ましたけれども、すごくおもしろいです。

それから、太一さんはアイヌ民族の記録映画に実際に子供のときに登場していた経験があります。その当時の思いとか、それが彼にどういう影響を及ぼしたのかということについて話していただきます。

それから、手塚先生は博物館に長く勤務されていまして、そこでの民族の展示、表象ということについてお話しいたします。

きょうは私も発表したかったですけれども、どうやら時間の振り分けをしていくと、私が出るような幕は全然なさそうなので、一応こんなことを私はやりたいんですよというようなことをちらっとだけ紹介させていたきたいと思っています。

私は、描かれ続けてきた先住民たちが、この40年から50年ぐらいの間に、みずからを描くようになってきた。その一つの象徴的なもので、先住民アートに興味を持っていまして、その研究をしていきたいなというふうに思っています。

きょうは本当に入り口の入り口で、こんなふうにして研究が始まっていくということを皆さんにお見せできたらと思います。

後半20分、少し長引いてもいいような時間の組み方にしてありますので、ディスカッションを計画しております。

これが私たちの趣旨説明になるのですが、焼鳥屋で思いついて、この計画を練るために何度も何度も焼鳥屋に通いましたので、ある意味では満を持してというところがありまして、いつも決まるのですが、飲んでるうちに酔っぱらって忘れてしまって、きのう決めたの何だったっけということで、また会議だねというのを何度も繰り返してきました。

では大石先生、よろしくお願いいたします。